



ミュンヘン便り ～ドイツ電車事情～

2月中旬の今朝、事務所に行く道すがら、木に登っている人々を発見（写真ご参照）。建物の2階か3階の高さは優にある木の、しかも比較的細い枝に、鳥のごとく身体を固定して、木の枝をチョンチョンと切っています。冬の終わり、もしくは春の始めのこの時期、こんな光景を時々見かけます。ドイツではしばしば強風を伴う嵐に見舞われます。その時、強風で木の枝が折れて吹き飛んだり、木そのものが倒れたりします。嵐の翌日は通りが枝で覆われ、自転車や電車が通行できない状態になることはよくあることです。車などが倒れた木の下敷きになることもあります。嵐で枝が折れたり、木が倒れたりすることがないように木を手入れするのは、木の所有者、つまり木が立っている土地の所有者の責任です。木の手入れを怠れば、嵐で倒れた我が木によりつぶれた隣人の車の損害を賠償しなければならない羽目になり得るのです。

旧年のクリスマス前に北ドイツに行く際に電車に乗ったときも嵐の翌日だったのですが、ハンブルグ行きICE（ドイツ版特急列車）はミュンヘンから予定通り出発したので安心したのもつかの間、途中の駅Aで寒空の下、放り出されました。次のICEを待とうかと思ったものの、次に来るはずのICEは運休になったとのこと。それでは隣の駅Bから出る各駅停車電車で地道に目的地に向かって進もうと隣の駅Bに移動してみれば、各駅停車電車がなぜかキャンセルされて運休とのこと。何

か乗り込める電車はないのかと駅の窓口で聞いてみたり、インターネット情報を見たり。駅Bはスーツケースを持った同志で溢れかえっている。そうこうしているうちに、インターネットによればさっき運休になったはずの次のICEが運行されることになったとのこと。おお、それでは早速、と次のICEを捕まえるべく再び駅Aに戻り、やってきたICEに何とか乗り込み、席を確保し、出発して安心したのもつかの間、電車が停止して待つこと1時間。嵐のせいで軌道を掃除中だという。

1時間後、動き出したのはいいものの、今度は目的地のハンブルグまではいかず、途中のゲッティンゲンまでしか行かないかもしれないという。ところがゲッティンゲンに近づくにつれてアナウンスが流れ、「せめてハノーファーまで行けるように、今交渉中だ」などという。一体誰と何を交渉しているのか、と思いながら聞いていたら、「ハノーファーまで行けることになりました!」。さらにハノーファーに到着する直前、「ハンブルグまで行けることになりました!」。結局、15時には目的地に着いてお茶できるはずだったのが、着いたのは19時前でした。でもこれはまだましな方。いつぞやの嵐の際には目的地の駅にたどり着けず、真夜中の2時に2つ手前の駅で放り出され、嵐の後の雲一つない空に煌々と輝く満月を見上げながら家族の迎えの車を待ったこともありました。



日本の電車が定刻通りに運行されることはドイツでは有名であり、しばしばドイツの電車事情と比較されます。「日本では電車が3分おきに正確に来るのに、なぜ我々のSバーン（ミュンヘンのローカル電車）は20分間隔ですら正確に運行できないのか!？」

しかし運行するならまだいいほう。ストライキになると動きません。最近は実に多いのですよ。今年に入ってから、まずはドイツ鉄道（ドイツ版JR）が史上初の6日間連続ストライキに突入（結果としては連続5日で止まった）したのを皮切りに、ルフトハンザの地上部隊、ルフトハンザ系列の航空会社のパイロットなど次々にストライキを決行。交通機関のストライキについては労働者の権利を守る声が強いドイツにおいてもさすがに賛否両論ありますが、ドイツ鉄道によるストライキの差し止め請求は裁判所により毎度却下されています。ここまでストライキが多い背景はもちろん着々と進行するインフレ。筆者がミュンヘンにいる間の2007年10月から2024年

1月まで、消費者物価指数は85.1から117.6まで上がりました。38%のインフレ上昇率ということになります。一昨年、昨年、そして今年と3年連続でEPOが値上げをする理由もここにありま。ところで今年の3月末はイースターの連休にあたっています。EPOの値上げ前に年金支払いを希望されるなら、早めにご指示なさってくださいね。

筆者紹介



稲積 朋子（いなづみ ともこ）

日本弁理士・欧州特許弁理士・ドイツ弁理士。現在GIP Europe所属。

1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事

務所に駐在。2009年1月、GIP Europe設立。日本企業・ヨーロッパ企業からの特許出願業務・中間処理業務・異議申立・鑑定・特許無効化の手続・侵害品ウォッチング・契約書作成・係争案件などを扱う。

趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。